

第一章 戸惑いと困惑

私はすぐに行くから少し待つようにと言つて電話を切つた。実家に向かう途中、私はまたかとため息をつく。いつものように少し時間が経てばよくなるだろう。母は数年前から血圧が高くなり、時々めまいを起こすことがあった。実家に着いて浴室に行くと、シャツを羽織り、浴槽の縁に腰掛けている母の姿があった。うつむき加減で左足が痛いと言つていたが、めまいの訴えはなかった。徐々に痛みも和らいでいるということであつたため、私は少し様子を見ようと提案した。寝室へ移動するのに手を貸そうとするも、気分が悪くなると言うので待つことにした。それからどのくらい経つただろうか、一向に動く気配のない母に、このままでは風邪を引いてしまうからと言つて、寝巻を着せて、父と一緒に寝室へ運んだ。母は小柄であったが、脱力した人間を運ぶのは、二人がかりでも大変だということを知つた。



布団に移つてすぐに母は吐いた。きっと無理に動かしたからかもしれない。後始末をする私に、母は「ありがとう、助かるよ。そばにいてくれると安心するよ」と目を閉じながら言つた。しばらくして、母はふと、左半身に力が入らないとつぶやいた。それを聞いてドキッとした。このとき初めて、ことの重大さに気づいたのだ。

救急車でA病院に搬送された母は、すぐさま救急外来に運ばれていた。診察が終わるまで待つよう看護師に言われ、私と父は廊下の椅子に腰を掛ける。周りを見渡すと、ほかにも家族の診察が終わるのを待つ人たちの姿があり、皆一様に不安げな表情を浮かべている。救急車のサイレンの音が近づいてくる。さっきまで気づかなかつたが、ここに来てから何度もサイレンの音が響いていた。

とにかく母の介護申請を行わなければならない。役所の担当者によると、判定が出るまでには一ヶ月程度かかるということだ。自宅に戻り、手渡されたパンフレットに目を通す。サービスの種類や利用者負担割合などが書かれている。早速、母にはどんなサービスが必要なのか、費用はどのくらいかかるのか調べてみる。しかし、具体的にどのようなサービスが必要になるのか想像がつかない。判定が出たらケアマネジャーに相談して決めていくしかないようだ。



二月

母の退院調整をするため、担当者と話し合いをすることになつて、A病院は急性期の医療を担つてゐるため、病状が安定してくれれば、ほかの病院などに移らなければならぬ。スムーズに移ることができること、血流が途切れたり、血管が破れたりして脳卒中を引き起します。しかし、脳卒中は予防できる病気もあります。毎日の生活の中で血圧や血糖などをしっかり管理し、リスクを減らすことで、発症の可能性を大きく減らすことができます。

【脳卒中を予防するには】

- 年に一度は健診を受け、自身の状態を確認する
- 高血圧、糖尿病、不整脈がある場合、病院で治療する
- 飲酒を控えめにし、タバコをやめる
- 食事の塩分・脂肪分を控えめにする
- 体力にあった運動を続け、太りすぎないようにする

問合せ▶健康づくり課（☎ 243-7311）

看護師に呼ばれ診察室に入る。CT画像を見ていた

医師によると、結果は「右視床出血※」。意識はある現時点で命に別状はないが、出血が広範囲に広がっているため、左半身に重度の後遺症が残る可能性があり、さらにマヒによる身体的・精神的ストレインをもたらす危険性や、著しく認知機能が低下するということも考えられる。例えば、潜在していた病気が一気に悪化し命を落とす危険性や、入れても延命治療したいか、よく考えておいてほしいとも言われた。あまりにも早すぎる展開に、私は頭の整理が追いつかなかつた。

入院手続きは、後日、改めて行うことになり、病院の駐車場に停めてあつた車に乗り込んだ。冷え切つた車内で母を心配する父の言葉に反応しながらも、私は今後のことを不安を感じていた。父は高齢だ。身の回りのことは一通りできるものの、過去に患つた病の影響で健康に不安がある。

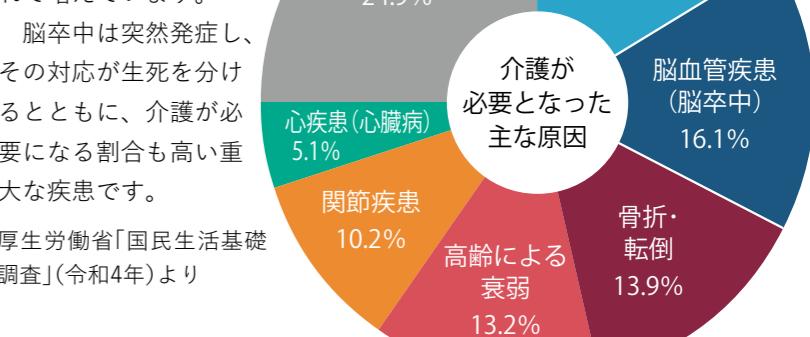
全般は母が行つたため、今後は父が一人でやつていかなければならない。私がサポートするにしても、それでも生活環境は大きく変わるだろう。妻も協力してくれるだろうが、数年前から義母が入退院を繰り返している。そのうえ、今年は二人の息子たちの受験も控えている。義母や息子たちのことで常に忙しくしている姿を見ていると、とても甘える訳にはいかない。さらに入院費のことでも大きくのしかかる。

周末に面会に行くと伝えた。

※視床出血とは、脳の深いところにある「視床」からの出血で脳出血の一つ

脳卒中の患者数は約189万人

脳卒中には、脳の血管が詰まる「脳梗塞」と脳の血管が破裂する「脳出血」、脳の血管の一部分に動脈瘤ができる破裂する「くも膜下出血」があります。高血圧が長く続くことによる動脈硬化の進行が最大の原因です。厚生労働省の「患者調査」（令和5年）によると、脳血管疾患の患者数は188.6万人で、年齢が高くなるにつれて増えています。



厚生労働省「国民生活基礎調査」（令和4年）より

Aは腕(Arm)



両手を胸の高さまで上げて維持しようとしても、腕が胸の高さまで上げられない、または片腕だけ徐々に落ちてしまう

Sは言葉(Speech)



「ろれつが回らない」「言葉がうまく出ない」を確認。自分では分からないことも多いため、周囲の人気が気づいてあげることが重要

Tは時間(Time)



脳卒中は時間との闘い。顔、腕、言葉におかしな感覚があれば、すぐに救急車を！

すぐに受診すべき脳卒中のサイン～FASTでチェック～

脳卒中の発症のサインに早く気がつくための「FAST」という確認方法があります。「FAST」とは、脳卒中でおこる典型的な3つの症状の頭文字と、「T=Time」を組合せた言葉です。「FAST」という言葉からもわかるように、脳卒中治療は時間との闘いなのです。症状に気づいたら、すぐに救急車を呼びましょう！

問合せ▶救急課（☎ 221-0126）

Fは顔(Face)



口を「イー」と開いたときに、左右対称にならずゆがんでいる。食事をしているときに、食べ物が口から落ちたりこぼれたりする

リスク管理で、脳卒中を予防

脳卒中の主な原因是、高血圧、喫煙、脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病です。これらの要因が脳の血管に負担をかけると、血流が途切れたり、血管が破れたりして脳卒中を引き起します。しかし、脳卒中は予防できる病気でもあります。毎日の生活の中で血圧や血糖などをしっかり管理し、リスクを減らすことで、発症の可能性を大きく減らすことができます。

【脳卒中を予防するには】

- 年に一度は健診を受け、自身の状態を確認する
- 高血圧、糖尿病、不整脈がある場合、病院で治療する
- 飲酒を控えめにし、タバコをやめる
- 食事の塩分・脂肪分を控えめにする
- 体力にあった運動を続け、太りすぎないようにする

問合せ▶健康づくり課（☎ 243-7311）